

第1問

5 10 15 20 25 30

5 7世紀前半には中国南北朝の仏教文化を、百済経由で渡来人を通じて氏族ごとに受容した。白村江の戦いの後は、亡命百済人や唐と対立して日本に接近した新羅から初唐文化を移入した。律令国家が成立すると遣唐使を再開し、唐との直接的・定期的な通交により、留学僧・渡来僧を通じて最新の仏教と盛唐文化を国家的に受容した。

第2問

5 10 15 20 25 30

5 (1)(2)のような荘園や惣村を基盤とした土一揆には、荘園領主や村の自治を主導する沙汰人を通じて命令伝達などを行い、(3)(4)のような守護被官が構成員となった土一揆には、武士の家の主従関係に基づき、一揆参加者への処罰などを守護に委ねようとした。このように、幕府は一揆参加者が属する集団の長を利用して一揆に対応した。

第3問

5 10 15 20 25 30

5 A 残存する豊臣家の牽制や西国支配強化を意図した家康のもと、東海道では伝馬役による輸送網の整備とともに、譜代大名の配備による江戸・京都間の防衛の強化や移動の安全性の確保が重視された。
B 豊臣家滅亡で幕府支配が確立すると、家康の命令に迅速に応じるものから、大名間の序列を規定した法度を守る意識へと変化した。

第4問

5 10 15 20 25 30

5 A 日本と西洋では音階・旋法に対する考えが異なるうえ、教育環境が整っていない状態では、性急な唱歌の導入は困難と判断された。
B 当初は外国人教師を招いて西洋人が作曲した音楽を導入していたが、専門的な音楽教育の実現と国家主義教育の浸透にともない、日本人自身の作曲による唱歌を学校教育の場で普及させようとした。